

菜切谷廃寺跡 (なぎりやはいじあと)

所 在 地 宮城県加美郡加美町鳥菜切谷字清水

指 定 宮城県指定史跡 昭和 31 年 9 月 15 日

概 要

中新田地区の北西部、玉造・加美丘陵の先端部に立地しています。標高は 33m ほどで、周囲には平坦地が広がっています。

昭和 30 年に発掘調査が行われ、建物基壇跡が発見されました。これは周囲に河原石を小目積みにしたもので、規模は東西 13m、南北 11m、高さ 1.4m です。基壇跡の周囲から多量の瓦が出土しており、奈良時代前半から平安時代前半にかけてのものが見られますが、最も多いのは多賀城創建と同じ時代の瓦です。また、「小田建麻呂」の銘がある鬼瓦も出土しています。

本遺跡の西方約 1km には城生柵跡が位置しており、菜切谷廃寺跡はこれに附属して設けられた寺院と考えられます。

